発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
編集兼発行人　鶴　牧

賃闘・企闘をつなぎ 敵の先制攻撃をハネ返えせ

九炭労第十四回臨時大会終る

第十四回九炭労臨時大会は、二月六日福岡市教育会館でひらかれた。資本の側の賃闘にたいする先制企業整備のあいつぐなかでひらかれた大会は、賃闘、企闘にたいして鋭い論議を展開し、九炭労傘下全組合員はこんどの闘いにたいして新たな決意に燃えて総決起することとなつた。

炭労への攻撃だ

大会には中央から野口副委員長、諫山給与部長、土屋国際部長などが出席して、賃金闘争経過ならびに企業整備反対闘争経過が具体的に報告された。賃闘の経過としては、民間五単産(炭労・全鉱・私鉄・合化・鉄鋼労連)の会議をへて、あくまで二月二十五日をスト突入のスタートとすることが話合われている。本格的には三月初旬から決戦状態突入が報告された。

一方、官公労も大体二月二十五日から闘争に入り、三月初旬をヤマとして闘うことになつている。このような報告にたいして、北炭の賃闘にたいする微妙な動きについて炭労の組織問題と賃闘との一本化が強く要望され、中闘もこれを深く認識しているむねを回答したゼロ回答という極端な他社とちがつて、北炭が賃上げをいれる意図を表明している点に関し、あくまで統一賃闘をたたかい抜くべきことが強く要望された。

つぎに、企業整備反対闘争経過については。

会社の保安サボに抗議、殉職者の冥福をいのる職場大会ー宮浦でー

私たちのこれからの闘争すなわち、三井鉱山の「企業整備」との対決および新賃金獲得のためのたたかいは、あらゆる時と場所でまき返しに必死な敵の攻勢をハネのける日常闘争とからんで、いよいよ激化し本格的に展開されます。

いうまでもなく、これらの諸闘争についての展望や組合員としての心構えなどは、すでに何回となく討議し合つてきたわけですが、本格的な闘争段階に突入するこの際、全組合員でいま一度闘争の意義を検討したいと思います。

一、これは全労働者のたたかい

「不況」で「赤字」で「支払能力がない」といういいがかりで、企業整備や賃上げ拒否を武器にお

不況のなかでわれわれの賃金闘争が、敵の企業整備にたいする先制攻撃であるとかんがえてきたが、逆に三井、明治、飯野、九採などそれぞれ企業整備が出されたことは、まさに資本の側からの賃闘にたいする先制攻撃として再認識する必要がある。例えば三井の企業整備を三鉱連がハネ返すその三鉱連の闘いをみんなでバックアップするというようなことではなしに、炭労それ自体にかけられてきた攻撃だと認識する必要がある。なぜなら第一に企業経理的格差は従来からもあるのに、炭労は同一要求、同一妥結で賃金ならびに期末手当の闘いをすすめてきたこれは他の単産とちがう炭労の一大特色であり、組織の強さを表明するものとしてかんがえられるべきものである。ところが敵は企業の存亡ということで再建を出し、企業整備をするというつているが、そのことは支払能力や赤字の問題として賃金にたいする頑強な拒否をふくみ、当然炭労としての統一賃金闘争を徹底的に破壊する意図をふくんでいる。第二に三井の再建案を検討しても分かるように、これは赤字党服、企業再建とはいうものの、その本質は職場闘争を圧殺する職制支配の強化であることはすでにわれわれが指摘したところである。

前進 闘争を支えるもの

しつけてくるのは資本の常とう手段です。現に、明治・飯野などにも企業整備が出された。

つまり、私たちの企業整備反対闘争は、炭労全体の「賃闘」いな全日本の労働者階級の「春闘」とつながつているのです。

このように、私たちの無立した闘争ではないことを認識すると同時に、三鉱連全六山の組合員と家族は、日本の全労働者とその家族たちとのスクラムを組み上げるべきです。もちろん、企闘と賃闘が絶対に不可分だからです。

二、民主主義を守るたたかい

私たちみんなが指摘しているように、こんどの「企業整備」の中心は、大巾な賃下げ自体にあるというよりも、会社の作業管理に盲従させたいという野望にある。

すなわち、闘争を含めた日常の職場活動が一切禁圧されるのであるから、資本の絶対支配の確立がそのねらいであることになる。

つまり、一般国民を含めて「オイコラ」の復活を策した「警職法改悪」と全く同様に、これは「民主主義」を弾圧する資本家階級の独善のあらわれです。

かくて、このたたかいは、民主主義を守るたたかいなのであり、一般国民の権利と密接なつながりを含んでいるわけです。

だから、私たちの一人々々が闘いを巾広く横にひろげる活動をすすめることが必要です。

三、激烈な長期闘争を決意

炭労、三鉱連を圧殺しようとする総資本は、異常な決意で周到な計画をたてています。

なぜ「異常」かというと、ドルの本家であるアメリカが、かつてのように世界の第一人者としても君臨できなくなつているが、このことは即資本主義のかつてない危機を意味するからです。

したがつて、日本の独占資本はきびしい危機感をもつて私たちに対する徹底的な挑戦を決意し、たたかいは激烈、長期化が必至です。

私たちは、今後の具体的な中闘指令を待つまでもなく、二月十五日の金受けからは一層「生活を切りつめ」、「仲よし運動」を拡大し、「分裂」に対する警戒態勢を布き、他組織労働者・農民・市民などに対する友誼を深めなければなりません。

「基準外賃金」が減るか減らないか、ではなく、資本に対する労働者としての自主性や労働組合としての発言権が問題であることをひとり残らず確認することができれば「不敗」の信念が生れるはずだと思います。

なぜなら、これこそ「闘争を支える」唯一の基本だからです。

明治で大量整理

いうまでもなく炭労の職場闘争は大衆闘争方式の中核として推進され、池の単産というぢるしく変つた闘争の基本をなしていた。したがつてこんどの企業整備は二重の意味で炭労組織そのものの破壊であり、炭労の闘争力の重大な削減となる。だから現時点においては企闘と賃闘を一体として、炭労としての統一した行動を具体的に開始しなければならないし、同時にこのような意味における炭労の闘争を全日本の労働者の春闘に結びつけ、反映し闘いすすめなければならない。

以上のような質問や意見が出された。

これにたいして中闘から、予想以上の敵の熾烈な攻撃にたいしていよいよ軍態の緊迫を確認し、春闘全体のなかで炭労が中核となりこんどの闘争を具体的に推進する決意であることが表明され、例えば明治労連の場合は二月四日に会社は大量解雇の態度を明らかにしたこの提案は三井資本が三鉱連に示した合理化と、その本質はまつたく同一のものである。

提案内容は平山区域の新二坑で坑内二〇〇名、坑外一〇〇名、上芦別(北海道)で坑内一九〇名、坑外九〇名の計五八〇名、その他坑内間接夫の配転、希望退職募集などである。

整理基準としての五五才以上のもの㋺長欠者㋩出勤常ならざるもの㋥素質不良者㋭家庭的に責任度の軽いもの㋬人員過剰職種に属するものをあげており、三十四年三月までに完了したいといつている。明労連では四日午後十時から第一回明労連企業整備反対闘争委員会をひらき、企反闘争指示第一号を傘下支部に発した。十二日以降実力行使に突入しうる闘争態勢を確立している。

飯野にも合理化

飯野炭鉱の場合は、二月二日「危機対策」ということで会社は合理化案を組合に提示してきた。これは下期期末手当の交渉のときから会社はほのめかしていたもので、今次賃闘における集団交渉確立のための折衝中にも、再三合理化をほのめかし、ついに連盟を脱退していつた。炭労としてはあらかじめこのことを予想して今次の賃闘中にでてくる企業整備にたいし闘いを組織するため、中闘に三権移譲の申請を行つていた。提案内容は(1)生産目標(2)賃金預り制度(3)諸出費の節減、新規出費の差し控えなどであり、月平均二五、〇〇〇トンの絶対確保、坑内一斉休憩を中止し一時間を四十五分とする。賃金預り制度では時間外、公休出勤を三十五年三月まで預かることになつている。このほか人員、経費をできる限りきりつめることや採用の中止、組合出勤、公務出勤の制限などをあげている。

基準外統一闘争を決定

議事にはいり、まず去る三十一日の中、委員会で確認された通り九州炭労としての基準外割増率の統一闘争と救護隊手当の改善が第一号議案として論議され、満場一致確認された。九十三票(白紙、無効なし)をもつて三権を九炭労に移譲した。これは道炭労においてはすでに実施されている基準外統一闘争を、九炭労がはじめて実践に移した画期的な闘いである。闘いは困難が予想されるが全員の決意で闘いがすすめられることになつた。

中小の賃金闘争推進について

中小のAクラスである飯野、九採明治などに別項のような企業整備が出てきたので、九炭労はかねてかんがえていた集団交渉方式の一角が崩れたわけである。すなわち飯野、九採があいついで九州鉱業連盟を脱退したので、集団交渉方式が事実上不可能になつたわけである。九炭労はこの事態に対処して対角線交渉方式を全体に適用し内容的には集団交渉方式とかわらない闘争の決意を固めて闘うことが提案された。

大会では集団交渉を対角線交渉に変更した理由について鋭い質問がなされたが、問題は対角線交渉を鋭く強く推進して、つぎの時期に集団交渉を実施できるような闘いをすすめることで諒解された。

難聴を職業病に

動議として畠廻労組から掘進夫を主体とする職業病に関する件が提案された。これは掘進夫がドリフをつかうことで難聴をきたすことについて労働省が調査をはじめているので、炭労として不利な結果にならないように難聴を職業病として指定されるように働きかけることが提案理由であり、全員一致これを執行部に一任。

闘争日誌

2・1　行動隊総会(市民館)支部対抗ソフトボール大会(港務支部優勝)
2　美唄労組落盤事故(死亡3重傷1)
三鉱連3号指令出る。
大地評交流情宣(宮浦、四山、港務より自労へ　宮川中闘上京
3　組合結成13周年記念日
美唄災害抗議職場大会実施の指令発す(三池)
大地評交流情宣(三川、本所、三作より三染労組へ)
4　交流情宣(四山支部)
玉名市議選、三池労組推せん候補松田正義氏(東氏)当選
5　各支部職場抗議大会美唄災害について会社に対し抗議電報発送
大地評交流情宣(三煉より四山、へ宮浦、本所、本部より東氏へ)
大牟田地区30回メーデー実行委発足
6　九本臨時大会、基準外割増率並びに救護隊手当の統一闘争・方針を決定
三権委譲及び企反闘争に対する具体的方針を検討。蒲池中闘上京。大地評交流情宣(三作より三染へ)
7　九本指導委員会、九本教宣部長会議(企反闘争のオルグ計画を決定)
大地評、委員長、書記長会議
春季闘争に対する共闘態勢確立の具体的計画を検討。

大量処分を提示

会社・王子労組に挑発

紙パ労連王子労組苫小牧支部に対して、一月三十一日会社は三十五名にのぼる大量の懲戒処分を追つてきた。このなかには懲戒解雇四名を含んでおり、会社の意図は不当弾圧はもちろん、労働者の権利を否定し、職場交渉権をとり去り職場闘争を粉砕することで組織を破壊しようとかかつてきている。王子労組は十二月九日、中労委のあつせんで百四十日にわたる無期限ストライキを解き、職場に入つた。会社の部課長は争議中かずかずの不当行為を組合員に加え、ことに脱落に対する支配介入ははなはだしいものがあつた。

組合では就労するや、まずこれらの不当行為を謝罪させ、こんご行わない誓約、さらに職場を明朗にして安心して働けるように各職場で要求を出してきかんに闘つてきた。だが、会社は日が経つにつれて職場要求を拒否し、職場交渉に一切応せず、またことあるごとに脱落者との差別的取扱いを行つてきている。

組合ではこの会社処分にたいしてたとえ一人の首切りでも全組織の問題として闘うとの方針を打出しこの闘争は職場交渉権確保の闘いであり、百四十四日の闘いの経験をいかし、全国の労働者の共闘のなかで闘うことが必要だと闘争方針を打ち出して闘いに立上つている。

抗議大会ひらく

美唄災害 保安サボに抗議

北海道美唄でおきた変災(死亡三重傷一)について、三鉱連では会社の保安サボを追及、北三連は一時間五十分の時限スト、西鉱連では抗議大会をひらくことを指令した。二月二日美唄吉の沢のこの重大災害は、一月二十九日の落盤死亡にあいつぐ事故でもあり、保安優先の実践に関して三鉱連としては変災を重視し、㋑重大災害発生に対する抗議。㋺保安優先の完全実施要求。㋩殉職せる同志に対して冥福を祈り、黙祷をささげるため、以上三つの指標のもとに第三号指令を発したのである。

これにもとづき三池では五日各支部一斉に第一番は昼休み、各方繰込前に同志に黙祷をささげ、会社の保安サボに対して抗議大会をひらいた。

王子闘争弾圧対策委を設置

岸内閣と独占資本の労働者に対する攻撃は一層露骨になつてきた。その事は一月十四、六日には三菱芦別で明闘中の強行就労に関連して五名がたい捕され、また王子闘争のオルグとして活躍した三井美唄労組の哲松副委員長に対する任意出頭、それにつづくたい捕拘留の気構えなどでもみられる。炭労中央執行委員会は、これら不当弾圧に対しては組織をあげて闘うことを確認し、総評を中心とした「王子闘争弾圧対策委員会」を設置することになつた。これは中央、地方(北海道)に弾圧対策委員会をつくりまた、必要に応じて春日井にも炭労評、九炭労をふくめ設置することになつた。中央での委員会は総評、紙パ、炭労、王子労組、総評弁護団において設置する